

児童の実態

本学級の児童は、学習課題に対して真面目に取り組むことができる。また話を聞きとり良いことは学習に取り入れようとする児童が多い。しかし思いや考えはあるのに、言葉で伝えることに苦手意識をもっている児童も少なくない。ペア対話はこれまでも学習の中で取り入れ行ってきたが、一方的に思いや考えを伝えるのみで会話が終わってしまうことも多く、話をつなげていく対話形式がまだ十分定着していない。

令和3年度の標準学力調査の結果では、『話すこと・聞くこと』領域において、「話し手が知らせたいことを落とさないように聞く」出題の正答率は高く、大事なことを聞き取ることはできているが、「話し手の話に関心を持ち、質問する」出題の正答率は先の出題に比べると低い正答率であったことから、相手の話に関心をもって考えながら聞くことにおいては弱さが見られる。

単元デザイン

本単元では、学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」(1)オ「互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。」に重点化して二人組の対話に取り組む。年間を通して求められる対話の力を育成することをねらいとしている。児童はこれまで話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）の学習過程において、1, 2年生では、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことを学習してきた。この時期の児童はまだ、自分のことを話したいという思いが強く、相手の話に興味関心をもって聞こうとする意識が弱い児童が多く見られる。豊かな話し合い活動にするためには、自分の発想と相手の発想との共通点や相違点について確認し、尋ね合っていくことが大切である。本単元では絵の中で起きていることを想像し対話をする活動を通して、多様な想像を出し合うことを重視し、それぞれに同意したり、質問したり、反応するなど、相手の話に関心をもって聞き取り、対話できる姿勢を育てていきたい。

本時の第1時においては、絵を見て何をしているのかを想像し、対話を行う。対話をしやすくするためにはワークシートを用意し、絵のどこを話題にしているのかを可視化できるよう絵を囲むなどして自分の考えが持てるようにしていく。また対話の際にはどのように話をつなげるとよいかを意識させながら、対話例を比較させ、どのような違いがあるのかを考えていく中で、話をうまくつないでいくためには、どういった言葉を遣って話せばよいかに気づかせていきたい。第2時では、前時の学習をもとに、ペア対話で話をつなぎながら更に想像を広げていく。対話においては、納得できる部分を見つけて取り入れたり、対話を通して新たな発想を得たりすることこそが重要となってくる。自分と異なる意見でも納得できる場所を見つけたり、新しいアイデアを意識して見つけ、ペアで想像を広げていけるようにしていきたい。そして本単元でつけてきた力を次の「グループの合い言葉をきめよう」の学習につなげていくと共に年間を通して、質問力を高めていきながら対話することの良さや会話することの楽しさを実感できるようにしていきたい。

研究主題に迫る手立て

安心できる学級・学校づくり

～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

- 【自己決定】自分の考えや思いを持つことができるようにするために、ワークシートを活用する。
- 【自己存在感】自分の想像したことを根拠をもって伝えられるようにするために、ペア対話を仕組む。
- 【共感的人間関係】相手の話を受け入れることができるようにするために、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら話を聞き、ペア対話を仕組む。

何をしているのかな〈全2時間〉

学習活動	①学習の見通しを立てる。 ②絵を見て何をしているところかを考え、どのように話をつなげるとよいか意識する。 ③対話例をもとにどのように話をつないでいるか話し合う。 ④共通点や相違点に着目しながら対話をする。 (本時)	①前時の学習を振り返る。 ②意見がどのように変化したのかを話し合う。 ③対話で取り組みたいことを確認する。(想像を広げる) ④新たな絵を見て、様子を想像する。 ⑤想像を広げることを意識して対話をする。
言語活動	「何をしているのか」ペアで考えや思いを伝え合いながら対話しよう。	
思考力	多様な想像を出し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して対話する。	

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。【(1) ア】	・「話すこと・聞くこと」において、互いの意見や考えの共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。【(1) オ】	・これまでの学習や人と話し合った経験を生かして学習課題を明確にし、積極的に話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、想像したことについて対話しようとしている。

単元の主な資質・能力

1・2年

互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

3・4年

互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

単元の目標

【知識・技能】

・言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(1) ア

【思考・判断・表現】

・互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。A(1)オ

【学びに向かう力、人間性等】

・言葉が持つ良さに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

本単元終了時の目指す児童像

互いの意見の共通点や相違点に着目し、同意したり質問したりして、反応を示しながら対話ができる。

5・6年

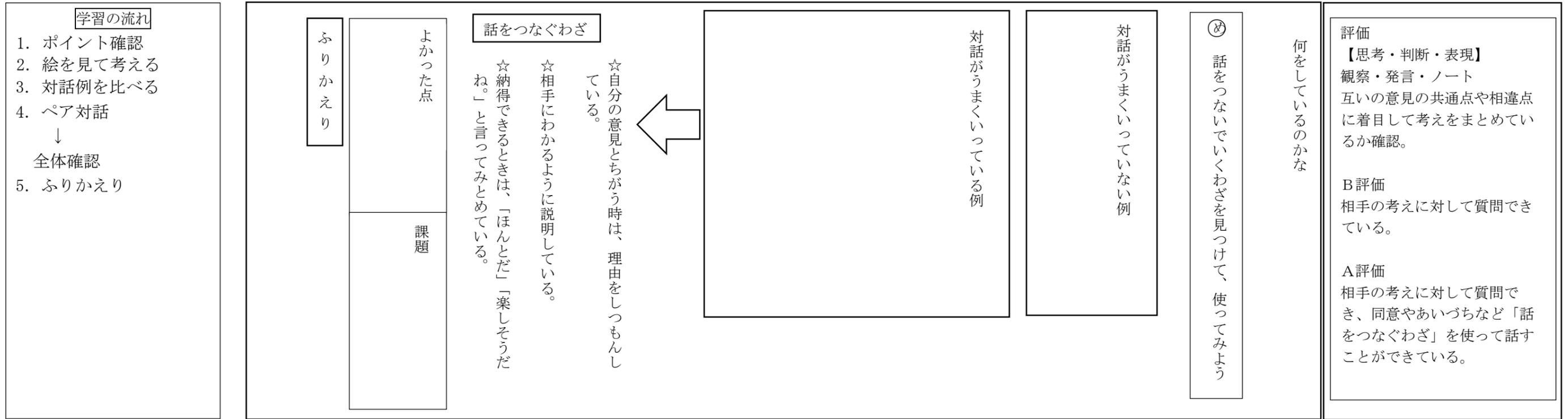
互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

中1年

話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

本時の目標 互いの意見の共通点や相違点に着目し、話をつなぐことができる。

本時における見方・考え方 多様な想像を出し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる。



つかむ・見通す
(話し合いの進め方・検討)

- ◆課題をつかむ。
T: この絵 (一部) は何をしているところかな? 自由に言ってみて。
C: けんかしていると思う・ふざけて遊んでいると思う。
T: 絵を見て (全体) 何をしているところか想像してみよう。
T: ワークシートに絵のどの部分を見て、何をしているのか書いてください。
T: 何をしているところかペアで伝えてください。
※順番を決めて交互に話をするを確認する。
T: この対話例を見てどんなことを思いますか。(失敗例提示)
C: みじかい。
理由が言えていない。
T: 話を つないでいくためにはどうしたらいいのかな?

◆本時の課題を知る。

話を つないでいくわざを見つけて、使ってみよう!

- T: 二つ目の対話例を見てください。(良い対話例) 異なる想像をしている二人だけど、どのように話を つないでいっているのかな?

解決活動
(考えの形成)

- ◆二つの対話例を比べる
T: 二つの対話を比べてちがうところはどこかな?
C: 「どうしてそう思ったの」と質問している。
聞かれた方は理由を伝えている。
「ほんとうだ」と納得している。
自分の考えを言っている。
話をしていくうちに、始めの考えが変化した。
- ◆共通点や相違点に着目しながら対話する。
T: では、見つけた話を つなぐ技を使ってもう一度ペア対話をしてみましょう。
※1回目同様交互に話すことを確認する。
- ◆よかったところや課題を全体で共有する。
T: 話を つないでいくわざを使ってみてよかったところがありましたか。
※対話の様子を全体で見合い、良い点を見つけ合う。
C: (成果)
質問をしたことで、友達の考えがわかった。
質問してくれたことに答えることができてよかった。
「ほんとだ」「たしかに」と言ってもらってうれしかった。
1回目より話が続けて楽しかった。
T: もう少しこうしたらよかったと思うところは。(課題)
C: もう少し質問ができたならよかった。
説明が上手にできなかった。
もう少し反応できたらよかった

まとめ・ふり回り
(共有)

- ◆まとめ・ふりかえり
※1回目の対話と2回目の対話を比べてのふりかえりや、今後対話をするときに取り入れていきたいことを書くようにする。